

年間指導計画例

目標 ▶ 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点		評価の観点		
							音楽への関心・意欲・態度		音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
【学期（4～7月）】	表現方法を工夫して歌ったりアンサンブルする楽しさを体験しよう	【目標】 歌唱の諸活動を通して、表現を工夫したり、アンサンブルに広げる楽しさを味わう。 【指導内容】 ・曲のイメージや表現内容を理解して表現方法を工夫する ・新たなパートを加えて表現のおもしろさを体験する ・読譜力の伸張を図る ・ポピュラー音楽の概要を学習する	○		△		・曲のイメージや表現内容の理解に努め、主体的に表現に取り組もうとしている。 ・様々な表現方法の工夫によって得られる音楽の変化に喜びを感じて取り組んでいる。		・曲のイメージや表現内容を理解して、声の使い方や歌い方を工夫している。 ・しっかりとした発声でより個性豊かな歌唱表現の工夫をしている。 ・リズムパートや、別のパート等を加え、個性豊かな表現を工夫している。	・曲想をイメージをもって個性豊かに表現するための発声を含めた技能を身に付けている。	
	日本の音楽	【目標】 音楽の諸活動を通して、様々な日本の音楽に触れ、その良さや美しさを理解する。 【指導内容】 ・曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う ・歌詞の内容を楽曲の文化的背景と関連付けながら理解し、表現を工夫する ・楽器の音色や奏法の特徴を生かした表現の工夫 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取って鑑賞する ・わが国や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞する	○	○	○	○	・曲想と歌詞の内容や文化的背景、及び民謡の発声の特徴に関心を持ち、イメージをもって歌唱しようとしている ・楽器の音色や奏法に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・詩の抑揚やリズムを理解し、イメージをもって創作しようとしている。 ・声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関して理解を深めようとしている。		・音楽を形づくっている要素やそれらの作り出す雰囲気や、歌詞の内容や文化的背景と関連付けながら理解し、発声の特徴を生かしながら表現しようと工夫している。 ・音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す雰囲気を理解し、表現意図をもって、創造的に演奏する工夫をしている。 ・詩の抑揚やリズムを理解し、創造的な創作を目指して表現を工夫している。	・曲想を、イメージをもって個性豊かに表現するための発声を含めた技能を身に付けている。 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かして、創造的な音楽表現をするための技能を身に付けている。 ・詩の抑揚やリズムを生かし、イメージをもって創造的に創作する技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解し、わが国や郷土の音楽の特徴への理解を深め、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	合唱	【目標】 歌唱や鑑賞を通して合唱音楽に触れ、その表現方法の特長や良さを理解する。 【指導内容】 ・簡単な輪唱や様々な形態の合唱をする ・中世ルネサンス・バロックの声楽曲の鑑賞	○			○	・様々な形態の合唱の持つそれぞれの良さやもち味に関心を持ち、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・楽曲の文化的・歴史的な背景や声の音色と表現上の効果に関心をもって主体的に鑑賞しようとしている。		・音楽を形づくっている要素やそれらの働きを理解し、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関連付けながら、創造的に表現しようと工夫している。	・様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、個性豊かに音楽表現するための技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解し、楽曲の文化的・歴史的背景への理解を深め、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	器楽	【目標】 表現や鑑賞を通して器楽に触れ、その演奏技能や鑑賞の能力を高めるとともに、その特長や音楽の文化的・歴史的背景を理解する。 【指導内容】 ・ギター、リコーダー、ピアノ等を中心とした様々な奏法の実習 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かした表現の工夫 ・バロック時代から近・現代までの器楽曲の鑑賞		○		○	・楽器の音色や奏法に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。		・音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す雰囲気を理解し、創造的に表現意図をもって演奏する工夫をしている。	・楽器の音色や奏法の特徴を生かした個性豊かな音楽表現をするための技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的背景への理解を深め、作曲家・演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
【学期（9～12月）】	世界の音楽	【目標】 音楽の諸活動を通して、世界の音楽の種類や特徴を理解し、その良さを味わう。 【指導内容】 ・曲種に応じた発声法の工夫 ・楽曲の背景と曲想とのかかわりを意識した表現の工夫 ・文化的・歴史的背景に基づく楽曲の鑑賞	○	○		○	・地域や民族による発声や音楽の特徴の違いに関心を持ち、意欲的に歌唱したり演奏しようとしている。 ・声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。		・地域や民族による特徴的な音楽の要素（音階・リズム等）を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら表現意図をもって歌唱したり演奏する工夫をしている。	・曲想をイメージをもって表現するための発声を含めた技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的背景への理解を深め、作曲家・演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	劇音楽の楽しみ	【目標】 劇や物語と音楽の関係を理解し、より豊かなイメージをもって表現したり鑑賞したりする。 【指導内容】 ・楽曲の背景を意識した表現の工夫や鑑賞 ・劇や物語と音楽とのかかわりを意識した表現の工夫や創造的な鑑賞	○		○	○	・劇や物語と音楽のかかわりに関心を持ち、意欲的に歌唱したり、演奏したり、鑑賞しようとしている。 ・一つの旋律を様々な変化させることでより創造的な作品になることを理解し、主体的に取り組んでいる。		・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を理解し、表現意図をもって歌ったり、演奏したりする工夫をしている。 ・音楽を形づくっている要素を理解し、それらを変化させ、より豊かなイメージをもってより創造的に創作を工夫している。	・曲想を、イメージをもって個性豊かに表現するための技能を身に付けている。 ・音楽を形づくっている要素を理解し、それらを変化させ、より豊かなイメージをもって創作するための技能を身につけている。	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的背景への理解を深め、作曲家・演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点		評価の観点		
							音楽への関心・意欲・態度		音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
三学期(1～3月)	アンサンブル	【目標】 声や楽器を組み合わせで演奏したり、様々な音素材を用いた創作を通して、様々な技能を身につけより豊かなイメージをもって表現する。 【指導内容】 ・声や楽器の音色、奏法、それらの組み合わせを生かしたアンサンブル活動 ・様々な音素材による音楽づくり	○	○	○		・楽器の音色や奏法及び、それらの組み合わせの面白さに関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心をもち主体的に鑑賞しようとしている。		・音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す雰囲気を理解し、表現意図をもって演奏する工夫をしている。 ・音素材の特徴を生かして、反復、変化、対照などの構成を考え、表現したい音楽をイメージして創造的に音楽づくりを工夫している。	・楽器の音色や奏法の特徴を生かした個性豊かな音楽表現をするための技能を身に付けている。 ・音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を工夫した創造的な音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	
	独唱	【目標】 歌詞の内容や楽曲の背景を研究し、様々な技能を身に付け、より豊かなイメージをもって表現したり、鑑賞を通して楽曲の価値を理解する。 【指導内容】 ・芸術的な音楽表現のための発声や発語の工夫 ・歌詞の内容や楽曲の背景を十分に研究した音楽表現の工夫 ・芸術歌曲の鑑賞と批評	○			○	・曲想と歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわりに関心をもち、イメージをもって歌唱したり、鑑賞しようとしている。		・音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す特質や雰囲気などを理解し、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解を深め、個性豊かな音楽表現を工夫している。	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって個性豊かに音楽表現するために必要な発声、発語、読譜等の技能を身に付け、創造的に表現している。	・音楽を形づくっている要素が生み出す特質や雰囲気と、歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわりを理解し、作曲者及び演奏者による表現の特徴への理解を深め、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりしながら創造的に味わっている。

学習指導計画の立て方

学習指導計画とは

学習指導計画は、その学校全体の総合的な教育計画である教育課程の実施に際し、実際の音楽指導に結び付ける最も重要なもので、学習指導要領に示された目標をどのように実現達成すればよいか、指導目標、指導の順序・方法、教材、時間の配当などを定めた具体的な計画である。そしてその指導計画の各段階、つまり年間指導計画、期間指導計画、題材による指導計画、単位時間の指導案には一貫した理念が大切で、かつ系統性のあるものでなければならない。この指導計画を作成することは、生徒の学習活動を方向づけるとともに、進度に合わせた学習達成度を正しく評価することを可能にするのである。

ところで、音楽Ⅱは12年間に及ぶ学校音楽教育の最終段階に位置し、音楽Ⅲとともに生徒の自主的で主体的な学習活動、さらに生徒の創意工夫に満ちた創造的な学習活動に支えられるものでなければならない。そしてそこで得た音楽体験は、各

生徒の生涯音楽教育につながっていかねばならず、このことを考えに入れて教師は音楽Ⅱの指導計画作成に当たることが重要である。

学習指導計画の作成

1. 指導目標

具体的な指導計画を作成するには、音楽Ⅱの年間指導目標をしっかりと立てること、そして具体的な指導内容となる領域別・各学期の題材をしっかりと設定することが大切である。その際、学校や地域の実情、さらに生徒の実態を的確に把握するとともに、教科としての目標を常にその根底におき、計画を進めることが大切なことである。

学習指導要領における教科の目標は、

①芸術を愛好する心情を育てる。

②感性を高める。

③芸術の諸能力を伸ばす。

④芸術文化についての理解を深める。

⑤豊かな情操を養う。

の5点に集約でき、これをうけた音楽Ⅱの目標は、

①音楽を愛好する心情を育てる。

②感性を高める。

③音楽的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

である。すでに述べたように、音楽Ⅱは音楽Ⅲとともに学校音楽教育の最終段階に位置する。生徒の生涯教育の基礎づくりとなるよう、具体的な指導計画において、領域別、題材・主題別の目標を立てる必要がある。

2. 指導内容の組織

指導内容は、題材や教材の設定と不可分なものである。それを組織するためには、目標をよりどころとし、生徒の発達段階、音楽的能力や実態を考慮したうえで学習指導の範囲を決定し、そのうえで適切な学習活動とその系統性・順序性を考えて学習指導の流れを決める。これに従い題材を構成し、適切な教材を選択して配当する。

なお本書の「年間指導計画例」では、4領域を適

宜組み合わせで題材を構成し、内容も均等に扱っているが、学習指導要領に記されているとおり、音楽Ⅱの表現領域では歌唱・器楽・創作のうち一つ以上を選択して扱うことができる。また表現と鑑賞の指導に当たっては、相互の関連を図ることが触れられており、常に横軸についても考慮に入れることが重要である。

3. 評価

学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されるものであり、指導と評価の一体化を図ることが重要である。したがって指導計画の中には、同時に適切な評価計画も含まれていなければならない。その際「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の四つの観点を十分に踏まえた計画であることが重要である。